

劇団！王子の実験室 第10回公演

ローション刑事

田口浩一郎

人物

呉^ウ (33) 中国国家安全部第九局の刑事

妈妈^{マーマ} (12) ^{ニヤオ} 奈族の村で、唯一人の女性

奈奈郎^{ニヤオニヤオロン} (36) 奈族の村の住人

奈奈土^{ニヤオニヤオトウ} (38) 奈族の村の住人

奈奈ス^{ニヤオニヤオ} (27) 奈族の村の住人

音響さん、舞台中央袖より現れる。音響ブースに着く。

奈土、奈郎、奈スン、続いて登場。少数民族らしい中世の礼服。奈土、ピアノカでテーマを演奏。奈郎と奈スン、両脇で歌う。奈郎と奈スンは、上に何かを載せた担架を持ち上げている。担架に乗せてあるものは赤い布がかけられ、まるで人間のような形をしている。呉、その傍らで iPhone に向かって何かを話しかけている。

呉

ニイハオ、北京、電波があつて助かった。国家全部第九局、呉より報告。貴州省は黔西南、

けんせいなん

奈族自治区に出張中。もう少しで雲南省という山奥。早く帰りたい。死後間もない女の遺体が発見された。人口は数百人の小さな村、容疑者は少ない。犯人はすぐに捕まるだろう。早く帰りたい。むしろ不可解なのは、こんな辺鄙な田舎になぜ俺みたいなエリートが派遣されたかだ。早く帰りたい。裏はあるだろう。が、知りたくもない。早く帰りたい。電気は辛うじて来ている。充電したらまた報告する。早く帰りたい。…送信。

村人たちの歌が終わる。奈土、奈郎、奈スン、担架上の「もの」に一礼。舞台中央袖へ運び込もうとする。

呉

待て。

奈スン

(振り返って) 何ですか。

呉

それは何だ？

奈郎

レンシートアオ
人似草。

呉 レンシートアオ？

奈スン この辺にしか生えない草です。

呉 草には見えんが。

奈土 人に似た草と書きます。

呉、突然担架上の赤布を剥ぐ。人似草の「顔」が顔になる。「頭頂部」には人毛のような毛が生えている。

呉 人じゃないのか？

奈土 収穫した時に、こうして叩う風習があるのです。

奈郎 刑事さんも食べるかい。

呉 これを？

奈スン 絶品ですよ、特にこの部分とか。

奈スン、指で「股間」の部分をごろりと示す。

呉 (顔をしかめ) いや、やめておこう。

奈郎と奈スン、笑いながら担架を袖へ。

奈郎 で、刑事さん、犯人は捕まりそうですか。

呉 目星はついてるよ。…しかし、この村どうしてこう、男ばかりなんだ。

奈土 何百年も前のはやり病で女はみんな死んでしまったのです。

呉 ほう。

奈スン これを谷の女神の嫉妬だと思つたご先祖様は、この谷に女を入れなくなつたのです。

呉 しかし、女がいなけりゃ人口は減るばかりじゃないか。

奈土 だから買って来ます、金で。

呉 恐ろしく野蛮だな、失礼ながら。

奈土 女の子が生まれたら、すぐ里に返してやります。乱暴もしません。皆、喜んでやって来ますよ。

呉 生まれた子は？

奈土 男ならこの村の子に。女なら母親が連れて帰ります。

呉 だから男しか？

奈土 はい。

奈スン それに人似草を食べると、女が欲しい気持ちは和らぎます。

呉 ほう…。

奈スン 谷の女神の分身だからです。食べますか？

呉 だから、要らない。…すると、被害者の女性が村に入る所を見た者は…。

奈土 いません。

奈郎 見かけたらすぐに追い出しますよ。

奈スン 谷の神に見つかればタダでは濟みません。

呉 まあ、迷信はさておき…忘れんわな、女を見たら…この村なら。

奈スン 女は陰の気、男は陽の気を持ち…。

奈土 陰と陽、陰陽の気は概ね釣り合っておらねばなりません。

奈郎 女などが入ってきたら、陰の気ばかりが強くなってしまう。

大きく頷きあう奈土、奈郎、奈スン。

呉 待つて待つて：じゃあ、明らかに陽すぎるじゃないか。見た限りでも陽・陽・陽（奈土、奈郎、

奈スンを指す）。3陽オーバーだ。

奈土 だから、アレを食べるんです、人似草を。

奈スン 女神の分身だから、陰なのです。

奈スン、明らかに男根の形に削った人似草を出す。奈郎、タイミングよくすりガラスで隠す。

呉 それ、明らかに陽だよね。

奈スン さっきの絶品部分です。

呉 なんてその形に削るのさ。

奈土 ガタガタ言わずに食べて下さい。

奈郎 あなたはちょっと陽過ぎるのです。

奈スン この村で捜査を続けるからには、さあ。

呉 迷信につき合うつりはない。

奈スン 水アメをからめると美味。

奈スン、人似草スティックにローションをかける。奈土、奈郎、奈スン、呉を下手袖へ追い詰めていく。

呉

おい、こら…やめろ…やめんか！貴様ら公務を妨害するのか！やめろ、食べたくないー！

呉、下手袖へ退場。

呉、iphone に向かって話しかけている。呉は人似草スティックを握り、自発的に食べている。奈郎、呉の口元をすりガラスで隠す。

呉
ニーハオ、北京、ニーハオ。呉より報告。被害者の身元が分かった。というより俺は彼女の顔

を知っている。党のパーティーでたまたま見かけたのだ。名は張冰冰^{チャンビンビン}。彼女は党中央メンバーの愛人（言いかけて言葉を濁す）：まあ、君の想像にお任せする。いつ、通信を覗かれているか知れないのでね。ただならぬ関係とだけ言っておこう。そして、彼女が運んできたと思われる大量の現金が発見された。金を隠していた男は遺体で発見。自殺だろう。あー、これでようやく北京に帰れる。

：それはそうと、この地方特産の人似草^{レンシツツァオ}をご馳走しよう。食感はキノコ、味は山芋とニラの間。鼻先に持って来られた時の馥郁たる香りに、意外や自発的に食べてしまった。楽しみにしていたまえ。

袖から出て来た奈郎と奈スン、呉に近づく。手に手に人似草を持っている。

奈スン
呉さん。

呉
おー、どうしたね、二人とも。

奈郎
奈一^{ニヤオイ}が死んだって本当ですか。

呉
追い詰められて自殺したんだろ。被害者の金を隠し持っていたとなっては言い逃れは…。

奈スン
そうですか…。

奈郎
しかし、彼は決して金のために人を殺すような…。

呉
じゃあ、何のために殺したんだね。私は北京に帰るんだ。捜査が長引くようなことを言っても
らっちゃ困る。…時に、これ（人似草）北京に送ってもらえないかな…できれば定期的…。

と、遠く鼓と鉦の音が聞こえる。奈土、あわせて笛を吹く。

奈スン
肉林舞。
ロウリンウー

呉
ローリンウー？

奈郎
肉の林の舞と書いてロウリンウー。

奈郎と奈スン、踊り始める。

奈スン
早いな。

呉
何が？

奈郎
死者よ…谷の神の、肉に挟まれて眠れ。

呉
？

奈スン
祭なのです、死者を埋葬する時の。

奈郎
もう奈一を埋めてるのか？

奈スン
それとも女か。

呉
あつはつは！被害者の遺体は北京に運ぶんだ。ここでは用わない。

奈郎

ああ…そうなんですネ。

奈スン

何も知らないもんで…。

呉

いいじゃない！素朴で！では、同胞から殺人犯が出たことについては残念なことだった。このどかな村で二人も死者が出たことも。心ゆくまで吊ってやってくれたまえ、私は北京に戻る
と…。

奈郎と奈スン、色とりどりの長髪カツラをかぶり始める。

袖に戻ろうとした呉、奈郎と奈スンに引き戻され、妙な酒を勧められる。奈土がテーマを激しめにアレンジした曲を弾き、PAの銅鑼、太鼓などの乱打が続く。全員、頭を激しく振りトランス状態に。

呉 放したまえ！私は帰るのだ！

奈郎 肉林舞が続く間は、村から出ることはできません。

呉 何だと！

奈スン 人が入ることもです。

奈郎 祭の続く限り、陰陽の気は絶妙に釣り合わねばならないのです。

呉 いつ終わるんだね！このローリンウーは！

奈郎 数日は続きます。

呉 何！？

男達、順繰りメイクを始める。奈スンと奈郎、人似草を両手に持ち、大根踊りとベリーダンスを混ぜたような舞を舞う。奈郎、呉の顔にメイクを施そうとする。

呉 やめろ！私はいい！カルトめ！忌まわしい迷信者どもめ！倒錯者どもよ！決めた！お前らを檢舉する…！反革命的反動的集会を催した罪で村ぐるみ取り潰してやる！貴様らに毛主席の革命思想を注入して…。

呉、奈郎に羽交い絞めにされ、奈スンに再び酒を飲まされる。

呉 やめろ、貴様ら…！何だこれは！

奈郎 人似草の酒。

奈スン

レンシートアオチユ
人似草酒です。

呉 やめろ…不味い！よせ…。

口からこぼれる酒、ドロドロしている。舞台正面の袖が開く。中から女の子（妈妈）が覗いている。PAの打楽器のみを残し、奈土のテーマ、ピタリと止む。

奈スン

ママ。

奈土、サツと袖幕を引いて妈妈を隠す。

呉

…ママ。

呉、奈スンをつき飛ばし、中央袖幕を開く。

再び少女が顔を出す。呉が手を差し伸べると、その手を取って舞台に降りてくる。奈土の演奏が再開し、付かず離れず呉と妈妈の男女の駆け引きが続く。奈土の演奏、どこか不安を感じるものにした。妈妈、呉にくしゃっと紙片を渡す。呉、妈妈を抱きすくめる。妈妈、発達障害を感じさせる、たどたどしい調子で言葉を発する。

妈妈

我・爱・你。
ウオー アイ ニー

自分で発している言葉の意味が分からないかのような、屈託のない笑顔を浮かべる妈妈。呉、紙片を開き読む。

呉

我・爱・你…。

妈妈

アイシテル…アイシテル…。

呉、脱力して倒れる。

奈土、呉をゆすつて起こす。

奈土 刑事さん、呉刑事…起きてください。

呉 う…ん…やめてくれえ…。

奈土 肉林舞が終わったのです。もう帰れるんですよ。

呉、パツと目を覚まし、起き上がる。そして、頭を押さえてまたダウン。

奈土 ハハハ…お酒が過ぎたのでしよう。

呉 ……ずいぶん早々と切り上げたな。数日続くんじゃないのか？

奈土 ええ、今回は十日間でしたから、短い方でした。

呉、飛び起きる。

呉 十日!?

奈土 ええ。

呉 俺は…。

奈土 寝てましたよ。

呉 十日も!?

奈土 よく寝る人だって、皆で笑ってたんですよ、アハハハハハハハ。

呉、耳を塞いで苦しむ。

奈土

人似草酒を飲んだ人には、よくあることです。初めて飲んだ人には特に。

呉

ああ…。

奈土

水場まで歩きましょう。散歩がてら…さあ。

呉、フラフラと起き上がる。

奈土について、村を案内される呉。と、農作業をする奈土と奈スンに行き合う。手を振る奈土と奈スン。

奈土 ここいら村の農地です。

呉 ここだけかね。

奈土 はい。

呉 谷間の、たったこれだけの畑で生活できるのか？

奈土 食べるだけなら十分です。人似草なんかもたまに生えていますから…薬として売れば…。

呉 金にもなるわけだ。

奈土 はい。

と、奈スン、苦しみ始める。駆け寄る奈土。

呉 どうした！？

奈土 来たか…。

奈スン、袖から金髪のカツラを出してかぶり始める。また、メイクを始める。

呉 あれは？

奈土 内なる女性が目覚めたのです。

呉 内なる女性？

奈土 (奈土に) 蔵に閉じ込めておきなさい。

奈郎

はい。

奈スン、奈郎に連れられて袖の中へ。

奈土

この村では月に一度、誰かが女を引き受けます。女になると言ってもいいでしょう。我々はこの村を「生理」と呼んでいます。

呉

生理!?

奈土

それも、女の子が生まれるまでの話ですが。女の子の父になれば、「生理」はピタリと止みます。我々はこれを「閉経」と呼びます。

呉

この村のもの、全員がそうなのか？

奈土

はい、我々は人似草を食べて陰の気を引き受けますから…仕方のないことなのです。

呉

長く食べない方がいいのか？

奈土

女の気持ちにもなれますから…得した気分ですよ。

呉

えー…。

しょんぼりした奈郎が正面袖から登場。

奈土 どうした、奈郎？

奈郎 奈土：当たっちゃまったんだ。

奈土 あー、お気の毒。

奈郎 今晚から地獄だよ。

呉 どうしたんだ、一体。

奈土 生理になった男にも欲があります。食欲、睡眠欲、それから…。

呉 なるほど。

奈郎 今晚から、奈スの手をしなきゃならねえ。

奈土 彼は当ててしまったのです、くじ引きで。

奈郎 この制度、もうやめねえか？平等じゃねえ。

奈土 我慢しなさい、昔からの決まりだから。

呉 失礼ながら。

奈郎 え？

呉 女性を入れたらどうかね？村に。

奈郎 バカ！

奈土 そんなこと…そんなこと出来るわけないでしょう！

呉 いや…でも。

奈郎 谷の神に聞かれでもしてみろ！えらい目に遭うんだぞ！

呉 いや、迷信はさておいて…。

奈土 とにかく、この村はこれで上手く回ってるんです！

奈郎 いや、決して上手くはねえけど。

奈土 陰陽の気は釣り合っていないければ…少なくとも、長いことバランスが取れないのは危険なことです。そのためには女を入れてはいけません！女だけは…！

呉 あの怪しげな草をやめればいいんじゃないのか？

奈土 え？

呉 あの人似草を…そうすれば余計な陰の気とやらを取り込まないで済む。で、他所から女を連れてきてさ…。

奈郎 あんた…やめられるか？

呉 うん？

奈郎 人似草。

…。

一度口に入れちゃったら…どうだい？

…なるほど。

奈土 ならば奈郎、肅々と村の一員としての責任を果たしてくれ。

呉 あの娘は？

奈土 え？

あの娘は金で買ってきたのか？

奈郎 あの娘？

呉 祭りの日にいた娘だ。

奈土 誰です？

呉 …え？

奈郎 いまですね、今この村に女なんて。

奈土と呉、退場。

奈郎、酒を飲みながらスマホを眺めている。呉がやって来る。

呉
女性を捜している。

奈郎
女？諦めが悪いね、あんたも。

呉
まだ十二、三歳だと思うんだ。

奈郎
七十のばあさまだっっていねえよ。

呉、奈郎、笑い合う。

呉
祭の最中に見たんだ、チラリと。

奈郎
生理中の男でも見たんじゃないですかい？

呉
確かに女だった。

呉と奈郎、笑い合う。

呉
とり敢えず一杯もらおう、いくらだい？

奈郎
二元。

奈郎、ショットグラスを出す。呉、妈妈からもらった、「我爱你」の紙片を渡す。

奈郎
…。

奈郎、紙片をむしり取る。

奈郎
ちよつと出かけて来る。何かを見ても話しかけるな。

奈郎、舞台から退場。

呉、干したショットグラスを、音の鳴るように強く置く。

呉
来たよ。我愛你。

妈妈、中央袖から顔を出す。

妈妈
来了。
ライラ

呉
愛の告白かと思いきや、この村で唯一の店の名前とは。我・愛・你。
妈妈
我愛你。

呉
この小さな村じゃなきや、気がつかなかったよ。

妈妈、何枚かの紙片とクレヨンを持って登場。

呉
大人を呼び出して、何のご用かな？お嬢さん。

妈妈、紙片に「妈妈」と書いて呉に渡す。

妈妈
妈妈。

呉
君の名か。

妈妈、うなづく。

呉
妈妈…お母さんか…不思議な名前だ。その年でもう子持ちかね。

妈妈、呉の腕をかなり強くひっぱたく。

呉
痛え！

妈妈、「12」と書いた紙を呉に渡す。

呉
十二歳か…こりや失礼した。

妈妈、頷いてにっこりと笑う。そして、また一枚の紙片を呉に渡す。

呉
(紙片を見て)我爱你…。うん、だから来たよ。

妈妈、首をかしげて「你呢？」ニーヌエアと書いた紙片を渡す。

呉
(紙片を見て)「あなたは？」

妈妈、頷く。呉、妈妈と自分を交互に指差す。そして、「あ…なに？好きかってこと？文字通り？」などと言いながら、服装の乱れを直す。

呉
妈妈：お嬢さん…いや、妈妈：気持ち嬉しい…だが、君と私とでは年の差がありすぎる。
我・爱・你。

呉
妈妈：いかん、それに君は十二歳じゃないか。今、全世界的にロリコンは肩身が狭いんだ。
我・爱・你。
呉
いかんよ、私は刑事。刑事にとって君は守るべき市民だからね。

妈妈、ウオイエチオンウエイシンジン「我也成为刑警」という紙片を示す。

呉
「じゃ、私も刑事になる」？ダメだ。一時の感情で君を過酷な刑事の道、すなわち刑事道に引き込むわけにはいかない。

妈妈、ルーグウオブーシーニーデエアシンジン「如果不是你的刑警？」という紙片を示す。

呉 「あなたが刑事じゃないとしたら」？何を言っているのか：私は頭のとっぺんから足のつま先に至るまで刑事だ。刑事の塊だ。下らない観念の遊びに付き合っている暇は無い。

妈妈、しょんぼりする。

呉 そう、しょんぼりしなさんな。君には、もう少し年相応のボーイフレンド、淫瀨たる若者が似合うとは思いませんか？

妈妈、不思議そうな顔をする。

呉 この村から連れ出してあげる。

妈妈、こわばった顔になる。

呉 こんなところに閉じ込められて、ろくな教育も受けさせてもらえず、言葉すら奪われている。立派な未成年者略取監禁だ。

妈妈
シャンペンライライ
玄牝来来！

妈妈、呉に「玄牝来来」と書いた紙片を渡す。

呉

玄牝…来来？

妈妈

チエノソソソントリチユライ
只能从洞里出来！

呉

え？

妈妈

穴カラシカ…出ラレナイ…。

呉

穴？

妈妈

穴カラシカ…出ラレ…ナイ。

スコップを担いで袖から出て来る呉。すれ違う奈郎と奈スン。

呉 ニーハオ。

奈郎・奈スン ニーハオマ。

呉 人似草ってのは意外と人里近くに生えてるんだな。

奈郎と奈スン、ハッと振り返る。

呉 もっと山奥かと思ったよ。

奈スン 見たのか？

呉 何をだ。

奈郎 人似草だ。

呉 驚いたよ、まるで並べて植えたみたいに整然と生えてるから。二本ずつキレイに。

奈スン ああ…。

呉 根方を掘り起こしたらもっと驚いた。

奈郎・奈スン ！

呉 人間の骨が、それもキレイに二体ずつそろって出て来た。こりやどいう事だ？

奈郎 古い習慣だね。

奈スン 最近じゃもうやってません。

呉 ふーん。

奈郎 人が死ぬと墓石代わりに植えたもんなのさ。

呉 人似草？

奈スン ええ。

呉 そうかね、しかし嫌だね。

奈スン 何が？

呉 男同士ペアで埋められるのはさ。

奈郎 え…ああ。

呉 男同士なんだろう、この村のことだから。

奈スン 一人じゃ寂しいだろ。

奈郎 それより、人似草を勝手に掘るな。

呉 駄目なのか？

奈郎 駄目だよ、

呉 分かったよ、気を付ける。

呉、その場を去る。

奈スン どうする、奈郎。

奈郎 うん。

奈スン あいつ、気が付いてる。

奈郎 「穴」まで行ってきたんだな。

奈スン 行ったんだろ、人似草を見たってことは。

奈郎 女媧の穴へ。

奈スン 誰から聞いたんだ？

奈郎 妈妈だろうよ。

奈スン 会わせたのか。

奈郎 これを見る。

奈郎、“我愛你”と書いたメモを奈スンに見せる。

奈スン 妈妈か？

奈郎 妈妈が、あの刑事をウチの店に呼んだんだ。

奈スン お前、よそ者に妈妈を会わせるなんて…。娘娘のこともあるんだ！もし、刑事に惚れたりでもしたら…。

奈郎 仕方ないだろう、妈妈の意志だ！妈妈の意思は玄牝の意志だ！

奈スン 妈妈の言葉は谷の神の言葉、玄牝の言葉…これを認めぬ者には災いが降る。

奈郎 やはり間違っていたのか…娘々を殺したのは…。

奈スン 仕方ない…あれだって妈妈の意志だ。

奈郎 意味のない言葉だったのかも…。なにしろあの娘は少しバカだから。

妈妈、中央袖から登場。奈スン、女と思しいお面をつける。

奈郎 女はある日、突然現れた。

奈土、袖から登場。

奈土 夜闇に乗じて、ぬらりと俺たちの目をかいくぐり、誰にも見つからずに妈妈へと近づいた。

奈郎 それはまるで、住人である俺たちよりもこの村を知っていて、カンの鈍い男どもあざ笑うかのよう。

奈土 俺たちを感じられたのは、緩やかに膨らんでゆく陰の気と、神の怒り、そして不安だけだった。

奈スン、奈郎のセリフにあわせて気持ち悪く動く。

奈郎 妈妈、妈妈や。

妈妈、奈スンを振り返る。

奈郎 おー、似ていること。私の幼い頃に生き写しだわ。

妈妈、恐れたじろぐ。

奈郎 お母さんよ、妈妈。あなたのママニヤオニヤンニヤンの奈娘娘よ。

妈妈 マーマ…？

奈郎 そう、昔はあたしが妈妈と呼ばれていたのよ。でも逃げ出した。私は死ぬのが恐ろしかったから。

呉、iphoneを持って袖から登場。

呉 ニーハオ、北京。「他所から女を買ってきて、女の子が生まれたら故郷に帰してあげる」。いや、どうやら嘘八百だ。

奈郎 村の外から来た男は、党中央のお偉方だったわ。私は彼から、村の外のこと、この世のすべてを教わった。そして死ぬのが怖くなった。

呉 人似草の下に埋められていた死体は二体ずつ。一体は男、そしてもう一体は明らかに女の特徴を有していた。

奈郎 私は彼との間に子を授かった。それがあなたよ、妈妈。

呉 骨盤の変形から、女の骨は全て経産婦のものであり…これは推測だが、おそらく生まれた子の父親と一緒に埋められていた男達だ。

奈郎 新しい妈妈が生まれたら、古い妈妈はその子が女になる前に、夫と地下へ入らなければならぬ。だけど恐ろしかったの。私が死ぬことと、何よりあなたのお父さんも一緒に地下へ連れていかねければならないことが。

奈スン、妈妈に近づき手を取る。

奈郎 逃げましょう。今夜、女媧の穴から村の外へ…。

妈妈、“玄牝”書いたメモを奈スンに渡す。

妈妈

シャンペンライライ
玄牝来來。

奈郎

シャンピン…玄牝…谷の神…。

妈妈

玄牝出てくる…ひどい目にあう…。

奈郎

迷信よ。それに、こんな村どうなったって構わないわ。

妈妈

シャンピンライライ
玄牝来來。

奈郎

大丈夫よ、心配しないで。お金だってこんなに持つてるんだから。(ポストンバッグを見せる
玄牝からだって逃げ切ってみせるわよ。

妈妈、不安そうな顔。奈スン、手を振って去る。

呉

奈奈一は、死んだ。この村の風習から行くと、彼には対で埋められるべき女が必要であることになる。なぜとって、この村には女媧の穴周辺以外に墓地はないからだ。埋葬される時は、必ず異性を伴わなければならない。思い当たる人物はただ一人。すると、彼女はこの村の人間で、しかも子供がいたことになるのだが…。張冰冰に子供が…。北京、聴いているかね？やはりしばらく戻れそうにない。これ以上首を突っ込みたくはないが、俺の中の好奇心がそうさせるのだ。刑事魂？…といつてもいいだろう。

呉、上手袖に退場。

村人達、ママを囲むように座る。トロンとして白く濁り、重湯のような人似草の粥をすすっている。奈スン、蝦のように丸まって横になる。奈土、「この日本製の調味料がイける」などと言つてペペを鍋に入れる。

奈スン あー、気持ちいい…。

奈土 おい、奈スンいきなり眠るな。

奈郎 よく陰の気と陽の気を練れ。相和したところで休め。

奈土 さもなきや、陰陽の気は惰性で回り続け、興奮が続いて平安はいっこうやってこない。

奈スン 気持ちいいのの何が悪いんだい？

奈土 永遠にずーっと気持ちいいのも…これはまた辛いものなのだ。

奈郎 何も要らない…欲しいとも思わない…玄牝の肉に埋め込まれてどちらがどちらとも分からなくなる。

奈土 我が玄牝か、彼が我か…。

奈郎 何をしたいたとも、されたいとも思わない…これが平安というものだ。

奈スン そりゃ、死んだと同じだ。

奈土 そうだ、死ぬのが一番いいんだ。

奈郎 お前もママに女の子を産んでもらって、一緒に地下に入れ。

奈スン 奈一みたにか。

奈土 永遠の交合が訪れる。ママと地中での永遠の交合が。

奈郎 地下の肉体が朽ちて消えると共に、地上では人似草が育つ。人似草は絡み合って交合は続く。

奈スン もう満足…と絡んだ雄株と牝株が離れたところで、俺達は収穫してこれを食べる。

奈土 一つ体の中で陰陽相和し、俺達は永遠の平安を得ることができる。

奈郎 この村での生活以外、あとは何も要らなくなる。

奈土 ほら、奈スン、人似草粥を食べてる場合じゃない。

奈郎 早く地下へ。

奈スン 行くよ、マーマが相手にしてくれれば。

三人、妈妈の顔を見る。妈妈、曖昧に笑う。一斉に笑う三人。

奈郎 この子はまだ無理だ。

奈土 子供を作れる齡じゃない。

奈郎 陰も陽もあったものか。

奈土 色気づいて、陰の気が強くなったら、早く女の子を作って二人で地下へ行くといい。

男達、笑う。

奈郎 お母さんも待ってるぞ、娘娘も。

妈妈、少し悲しげな顔をして中央袖へと入る。

奈スン でもさ…。

奈土 うん？

奈スン 何も殺すことなかったんじゃないのかな、娘娘を。

奈土 何で？

奈スン 妈妈が大人になりきっていないから、陰陽の釣り合いは少し陽に傾いてる。

奈土 うん。

奈スン 今までのことを許す代わりに、少しだけこの村に居てもらえば良かったんじゃないか？妈妈が

成人するまで。そうすりゃ陰陽の釣り合いを正常な状態に…。

奈土 ダメだ！そんなことしたら、いつまた妈妈をさらおうとするか分からない。

奈郎 それに…。

奈スン うん。

奈郎 あの女が、村の外のことを聞かせたら、今の妈妈も死を恐れるようになるかもしれない。

奈スン ……そうか。

奈郎 また妈妈が逃げ出したりしてみろ…今度こそ谷の神は現れるだろう。村を「中和」するために。

全員、恐怖のあまり沈黙。打ち消すようにズルズル粥を食べ始める。と、奈スンが音響さんに粥を勧める。

奈スン あの、よかったら…食べきれないんで。

奈土 その人はいいんだよ。

奈スン でも、一人だけ食べてなくて可哀想…。

無言でやんわり断る音響さん。

奈土 ほら、この人はいいんだ。

三人と音響さん、お互いに会釈。奈土と奈郎と奈スン、再び粥をすすり始める。

呉

北京：もう一つ。男一人に対して女一人が埋葬されるとするなら、他所から犠牲となる女性を連れてきて殺しているか、歴代のママと心中でもしているか二つに一つだ。俺は前者をとる。なぜなら、女性の妊娠期間は十月十日、出産を終えた歴代のママを村人の男にあてがうにしても、人口数百人のこの村では最後の男までママがまわってくるまで数百年はかかる。すると、この村の年長者は年齢数百歳を超えていなければならないことになる。可能性は低いだろう。

呉、上手袖に退場。

奈スン、女の面をつける。正面袖から現れる妈妈。奈スン、妈妈の手を引いて逃げる素振り。

奈郎 もうすぐ女媧の穴よ。そこから外に出れば…私たちは妈妈であることから自由になれる。

と、奈土、上手袖からギターを弾きながら登場。奈スン、びつくり。

奈郎 奈土。

奈土 久しぶりだな、奈娘娘…今は党中央メンバーの愛人、張冰冰と呼ぶべきか。

奈郎 どっちでも構わないわ、その忌まわしい名前ですえ呼ばれなければ。

奈土 妈妈…妈妈の前の妈妈。

奈郎 やめてちょうだい！

奈土 グランド妈妈…。

奈郎 やめて！私を汚しぬいた男ども…二度とその名で呼ばないで！

奈土 やはり、外から妈妈など連れてくるものではない…。妈妈の前の妈妈の前の妈妈、グランドグランド妈妈が急に死んだりなどしなければ…。陰陽の釣り合いを欠き、玄牝が目覚めることをわれらは過度に恐れてしまった。

奈郎 ふん、そのままこんな村、失くなってしまえばよかったのに。

奈土 われわれは焦った…仕方なく、もう物心のついた、妈妈としての教育も受けていない、陰の気が強いだけの子供を村の外から買って来た。

奈郎 大変ね、母親のご機嫌を取りながら生きるのも。

奈土 なんだと。

奈郎 出て来なさい、玄牝の肉の間から。この谷間に挟まって、過保護に生きていて何の楽しいことがあるの？

奈土 幸せなのさあ…。

奈土、ポロンとギターを弾く。

奈郎 …バカじゃないの。それより、よく私が見つけれられたわね、人似草の食べ過ぎで、頭のぼやけた男どもが。

奈土 教えてくれたんだ、ママが。玄雌来来…。

シャンペンライライ

奈スン、ママを振り返る。奈土「もし君がいなくなったら、玄牝来来／陰の気が消えて、玄牝来来／谷の神が来る、全てが消える、玄雌来来／全部お前のせい、玄雌来来」みたいな歌を歌う。特に「全部お前のせい」を繰り返す。ママ、苦しみだし、中央袖に頭を突っ込み逃げ出そうとする。落ち着かせようとする奈スン。ママ、袖から取り出した顔つき人似草で奈スンを殴る。執拗に何度も殴る。奈スン、ママに触れようと手を伸ばす。ママ、奈スンを殴る。奈スン、動かなくなる。奈土、奈郎、ママの前に跪く。

奈土 それでこそ村の母です。

奈郎 娘の亡骸はかがましましょう？

ママ 地下へ、男とともに。

奈土・奈郎 は！

妈妈、少し放心気味に中央袖へ退場。奈土と奈郎、ボストンバックを回収して退場。

呉、上手袖から登場し、奈スンの目の前に立つ。そして、スマホに向かって話しかける。

呉

犯人の奈奈一は死んだ。だが、彼が被害者である可能性も捨てきれなくなった。あまりにもタイミングよすぎる。まるで、冰冰と対にして埋められるために死んだかのような。彼に自殺を教唆し、強制したものがいるのか。では、いったい誰が？

切り札はこちらにある。冰冰の遺体だ。彼らは必ずこれを取り戻しにやってくる。俺はこれを待ち受けることにしよう。

奈スン、上手袖に退場。

呉、周囲をうかがいながら登場。

呉
妈妈、妈妈：我爱你！

妈妈、嬉しそうに袖から顔を出す。

呉
明日の晩、空いてるかね？

妈妈、首をかしげる。

呉
約束だ。君を村から連れ出してあげる。

妈妈、不安と恐れ表情を浮かべる。

呉
明日の晩、冰冰の遺体を北京へ搬送する。男どもは、総出でそのトラックを襲うはずだ。その隙を狙って、旧道からこの村を脱出する。

妈妈、首を横に振る。

妈妈

シャンペンライライ
玄牝来來。

呉
迷信だ。君をここに閉じ込めておくために、君にそう思い込ませているだけだ。

妈妈

玄牝が来る…。ひどい目に遭う…。

呉

君が迷信を…男達の思い込みを引き受ける必要はない。自由になれ。

妈妈

…。

呉

なあ、君が俺を否定したら、俺はただの誘拐犯になってしまふんだ。どうか俺を否定しないでほしい。俺を刑事でいさせてくれ。

妈妈

ここにいて。

呉

え？

妈妈

あなたのこと…好き。ずっとずっと、ここに居て欲しい。

呉

俺にこの村の人になれと？…（突如、必死の態）ダメだ！それは俺が刑事でなくなるということだ。刑事じゃない俺？誰だ…誰だそれは！ダメだ！俺は刑事だ！君を救いに来た刑事だ！刑事そのまま…。俺を愛しているのなら…なあ、頼むよ。

妈妈、躊躇いながらうなづく。

呉

ありがとう…じゃあ、明日迎えに来る。この古びた村から自由になるうじゃないか！

呉、指二本で敬礼。妈妈、少し微笑む。呉、上手袖へ退場。すると、下手袖から奈郎が出て来る。妈妈を睨んで少し笑う。

奈郎

シャムペンライライ
玄牝来来。

ビクリとする妈妈。 奈郎、不気味に笑いながら退場。

呉、妈妈を前に話をする。

呉
張冰冰の遺体はこの改造バンに乗せて、旧道を運ぶ。保冷設備のあるトラックが村の入り口に
来ているが、あつちはダメーだ。連中は必ず新道で網を張ってる。
君は荷台に隠れて村を脱出する。女媧の穴をくぐれば、それを合図に武装警察が村を制圧する
手筈だ。遺体と一緒に気味が悪いかもかもしれないが、我慢してくれるか。

妈妈

(大きく頷く) 是的。
シーデエア

呉、妈妈の頭を撫でる。

呉

いい子だ。じゃあ、荷台へ。

妈妈、正面袖へ隠れる。呉、ドライバーシートに座るそぶり。

呉

よーし、LET'S GO.

音響、バン発車、エンジン音。

呉

しかし、奇妙な村だったが、離れるとなると妙に名残り惜しい。あの人似草のせいだろうか。
いや…この四方を谷に囲まれた風情が、俺を引き留めるのだ。まるで母の胸に抱かれているか

のような安らぎ：しかし、いけない：。潮時なのだ。そうでなければ、本当に帰れなくなる。
この居心地の良い温もりに巻き込まれて：。

と、舞台上下袖から、奈スンと奈郎が登場。大きく手を振ってバンを停める素振り。

呉
おいでなすった。

音響、バン停車。

奈スン
刑事さん、どちらへ？

呉
被害者の遺体を載せたトラックが故障した。代わりの車両を運ぶところだ。

奈郎
女媧の穴が落盤したんです。

呉
落盤？

奈郎
新道を迂回して下さい。

呉
急ぐんだ。山を越えたい。

奈郎
分かりました。

奈郎、奈スンに向かってアゴをしゃくる。奈スン、うなづく。

奈スン
代わって。私が運転します。

呉
ナニ？

奈郎
山越えの道は難しいんです。

奈スン 馴れない人が運転して、何人も谷底です。

呉 ……代わろう。

呉、助手席に移り、ドライバーシートに奈スンを招く。奈スン、奈郎とうなずき合い、ドライバーシートに座る。音響、バン発車。奈郎、下手袖へ退場。

呉 ちよくちよく起こるのかね…落盤。

奈スン ええ…。

呉 不思議だったんだ。旧道を舗装して女媧の穴を掘れば、その方がずっと国道にも近い。なのに、わざわざ遠回りするみたいに道を通して。

奈スン ああ…そこは当局も、強硬に道を通そうとしたんです。でも、あそこは人似草が生えてるから。あ…ああ。

奈スン それがたまたま、視察に来ていた党中央の偉い方の口に入りましてね。奈土が耳元で「これ、採れなくなっちゃいますよ、道路なんか通したら」って（笑）

呉 ははは。

奈スン そしたら、その日に計画変更です。まったく役人というやつは…。

呉 私も役人だがね。

奈スン ごめんなさい。

呉と奈スンが会話に興じているなか、ママが中央袖から出て来る。手には顔つき人似草を構え、呉を殴ろうとする。

呉
そこまでだ。

呉、前方を向いたまま、懐から銃を出して妈妈に向ける。

奈スン

…。

呉
そいつで殴って冰冰も死なせたのか？

妈妈
…。

呉
（奈スンに）女媧の穴へ…。妙なマネはするな。（妈妈に）その顔付きの気持ち悪い野菜は捨てろ。

妈妈、人似草を中央袖へ放り込む。

呉
おかしいと思っていた。冰冰の遺体に付いてた打撲の痕跡。非力な者が、執拗に何回も固いも

ので叩いたような…。そうでなければ致命傷にならなかったんだな。

妈妈
…。

呉
少なくとも、男性の犯行ではない。では、犯人は誰か？この村で唯一の女…。

呉、妈妈を振り返る。

呉
そう、君しかない。

奈スン
妈妈は村を守るために…。

呉
殺人は殺人だ。

音響、バン停車。

奈スン

着いたよ。

呉
(奈スンに)降りろ。

呉、妈妈を人質にとったまま、油断なくバンを降りる仕草。

呉
(中央袖を見つめる) …どこが落盤だ？

奈スン
…奥だ。

呉
嘘つけ。この車ごと乗っ取って、冰冰の遺体を取り戻すつもりだった…そうだな？

呉、銃で妈妈を狙いながら、スマホを取り出し耳に当てる。

呉
呉だ。保護すべき被害者は、容疑者にならなくなった。もう誰にも気を遣う必要はないから、武装警官隊を投入しろ。トラックは無事か。結構。(スマホを切る) …冰冰の遺体は、無事国道に抜けた。

驚く奈スンと妈妈。

呉
我々の作戦が、このお嬢ちゃんを通して筒抜けだったことは気づいていた。

奈スン
じゃあ…。

呉 こつちがダメーだ。

奈スン 荷台の遺体は…。

呉 人似草だ！もう、しばらく食べられないと思って、昨日、大量に買い込んだんだ！

奈スン えー…。

呉 さあ、ここで大人しく制圧部隊が来るのを待つんだな。この変態村は一度解散し、健全なおいしい野菜の産地に生まれ変わるんだ！

と、上手袖より、女装した奈土が現れる。手に顔付き人似草持っている。

奈土 無理ね。

呉 おや、これは黒幕のお出ましだ…。

奈土 生理中にて失礼…。人似草は、男女一对の苗床からしか生えない。ねっとりとした猥褻と、不道徳からしか育たないのよ。

呉 また迷信かね。どんな野菜にも成長のプロセスがある。それを科学的共産主義的に解明すれば、どんなローカル野菜も栽培可能になるはずだ！

奈土 刑事さんが何を言おうと、この村は変わらない。何百年も同じようにして来たの。奈一も地下でママを待つてるわ。

呉 自殺した奈一か…？張冰冰と対で眠るんじゃないのか。

奈土 奈一は…ママが死んだら、一緒に地下に入る約束をしたのよ。その代り、ママの罪をかぶって死んだ。ね、ママ。

ママ、うなずく。

奈スン 首をくぐる時の、奈一のうれしそうな顔…。

奈土 うらやましいほどニコニコとして…。

奈スン この不健康な死への憧れが、人似草を育てるんだ。

呉 じゃあ、可哀想に…殺され損だ。冰冰は党中央メンバーの愛人だからね。俺が事件の真相をこのお偉いさんのお耳に入れば、この村はおしまい。妈妈は永久に地下へはやって来ない。

奈土 その党中央メンバーが、我々の味方だとしたら？

呉 …な。

奈土 武装警官隊はやって来ないわ。冰冰…いえ、娘娘の遺体も今にこの村に戻って来る。

呉、急いでiphoneを取り出し、耳に当てる。

奈スン 娘娘の隣は予約席だからね、なにしろ。

奈土 あーだが勝手に遺体を持ち出すっていうから心配だったんだけど…良かったわよ、ちゃんと警察の手配したトラックに載っけてくれて。

奈スン そのお偉いさんが眠る予定なんだ、娘娘と地下で。

奈土 墓地と村がなくなっちゃったら…彼だもんねえ、困っちゃうのは。

奈土と奈スン、大笑い。

呉 …おい！何やってる！制圧部隊はまだか？待機命令？どういうことだ！誰だ！誰がそんな命令を…おい！。

呉、舌打ちして iPhone を睨み、ポケットにしまう。

奈土
ね。

呉
中央のバカどもが…。

奈土
さて、だけど困った。

奈スン
誰がママと子供をつくるかだ。

奈土
ママの隣は、もう奈一で決まってるし。

奈スン
ママと女の子を作った男は、対になる相手もなく地下で独り寝。

奈土
カワイソー！…そこで。

奈スン
刑事さん、あなたにお願いしたい。

呉
何をだ？

奈土
ママと子供をつくって、あとは一人で眠って下さい。

呉
狂ったか。モノを頼む相手を間違ってるぜ。

奈土
陰も陽も、地下での幸せも全部迷信なんですよ？あなたに言わせりゃ。

奈スン
あんた、何も怖くないはずだ！死後について、何も信じてないんだから。なあ…怖いんだよ、俺達は…まぐわいの相手もなく、一人で地下で眠るのは…。

奈土
幸い、ママもあんたのこと好きみたいだし、ね！。

ママ、恥ずかしそうにうなづく。

呉
君は、俺を殺そうとしたんだぞ。

奈土 事情が変わったのよねー。

妈妈、恥ずかしそうにうなずく。

奈土 早く女の子を作ってちょうだい。もう、私の番が回って来てもいいはずだから。
奈スン 何しろ、俺達や地下に入るのをもう何百年も待ってるんだから。

奈土、奈スン、悲しげに大笑い。

呉 何百年？

奈スン そう。

奈土 死ねないのよ、次の妈妈を作らないと、あたし達は。

奈スン 陰陽の回転を止めて、妈妈と眠らない限りは…。

呉 馬鹿な…。迷信者ども…カルトめ！

奈土 さあ、妈妈。

妈妈、銃を構える呉を恐れもせずに近付き、そして、寄り添う。

奈土 (呉に) 早く子供を。

奈スン (呉に) そして、一人で死んでくれ。

呉 やめろ！こんな…不健全な…。児童虐待だ！女性蔑視だ！…貴様ら！

奈土 何と言われようと、人間には逆らえないものがある。

奈スン 特に男には。

奈土 谷の神、そして神の決めたことには逆らえない。

呉 やめろ！そんなものはいない！

奈スン いる！俺は見た！

奈土 私も奈スンもひとり者だったから消えずに済んだのよ！

奈スン 村には徳があふれていた。男は女を巡り争わず、女は男を扱ぶところがなかった。男には一人の女がピタリと寄り添い、誰もが満足し、人は出でず、また入らず。小天下は泰平に、一見して陰と陽はつり合いを保って、村はまるで静止しているかのごとき穏やかさであった。

奈スン ところが玄牝が現れた日…。

奈土 牝雄一対夫婦であつたものは、ことごとく死んでしまった。

奈土 玄牝は陰陽を中和し、ゼロにしてしまう。私たちは死への恐怖から、生き残った女を村から追い出した…。

奈スン 死して地下に行った一対の夫婦からは、人似草が生え出し、俺達はそれを食って生きて。

奈土 そして、死ねない体になっていることに気が付いた。

奈スン 玄牝に消された夫婦の亡骸を葬る。幸せそうな顔…顔…俺達は死を恐れる反面、死に対して憧れを持ち始めた。だが、陰と陽は止まることなく俺たちの中を回り続け、内なる女性との「結婚」は、常に新しい体を生み出し、俺達に与え続ける。

奈土 そして思い至つた…コントロールされた結婚が、いかに自然を歪めているかということ。

奈スン 静止した、終わりのない繁栄など、自然には不要なのだ。

奈土 男は女に扱ばれるべきだ！

奈スン そこで村にひとりだけ女を置いて、彼女に扱ばれた男が地下に行くことにしたんだ、一人ずつ。

奈土 順番に、公平に地下へ行ける仕組みを作つたつてわけ！

奈スン 玄牝はいる！

奈土 しかし、現れてはならない！内なる女性を抱えたまま玄牝が現れることは、この村の全滅を意味するのだから。

奈スン 陰陽の気の釣り合いが保たれる限り、彼女が現れることはない。女に扱われる自然を、俺達は守るんだ！

呉 馬鹿じゃねえのか、お前ら。

奈スン 何だと！

呉 女に扱われるための「争い」はどこへ行ったんだ？

奈土 争う必要などない！

奈スン すでに内なる女性を抱えている俺達には、女を争う理由がない。

奈土 それが玄牝が私たちに与えた「自然」なのよ！

呉 お前らは死ぬのが恐くて、女の言いなりになってるだけだ。

奈土 何だと！

呉 お前はお前のように生きて、モテなければモテなければいい。死ぬのなら死ねばいい。死を人質に取られて、女の言いなりになって生きるのは、女に対しても失礼なことだ。

奈土 これが私たちの「自然」よ！

奈スン 谷の神の言いなりになって、こうしているわけじゃない！

呉 本当かあ？

PAにて「言いなりになっているでしょうが」という声が響く。妈妈、メモ書きを走らせ呉に渡す。

呉
玄牝…。

妈妈

シャンペンライライ
玄牝来来！

中央袖より、袖幕とつながった玄牝が現れる。その正体は、女の巨大な顔。長いつけまつげに、ネイルみたいな模様を顔に施している。そして、前髪。パツツンに巨大なリボン。(中に入ってしゃべっているのは奈郎。ボイスチェンジャーを通して。玄牝は怒ると目が光り、落雷の音がする。)

玄牝
あたしが恐いから、言いなりになっているんでしょーがよ。

呉
お前が玄牝か！

玄牝
我こそは陰に包まれた陽、でも女、谷の神、玄牝です。

呉
キャッチコピーとしては甘いと思う。

玄牝
るせーんだよ、テメエ。

奈スン
ひ…ひああアー！

奈土
玄牝だ…玄牝だあ！

玄牝
お前えら、八百年前とちつとも変ってねえ。

呉
八百年！？

玄牝
こんななると思わなかったし。誰がまた競争のない世の中作れつつたよ？あ？

奈スン だって、人似草を食べたら…。

奈土 争う気持ちだ…。

玄牝 それ食えつつたか？あたしが、あ？

奈土 いや、あの大惨事の後に生えて来たから…ねえ。

奈スン 何か大いなる意志の表れだと思っ…。

玄牝 偶然だし！みんな村が争わないで女つぼくなっちゃったから、増えすぎた陰の気を捨てたらそ

こにたまたま生えて来ただけだし！

奈スン すいません…。

玄牝 そうやって簡単に謝んじゃねーよ！男がよ！もー、イライラすんなー。第一、そのせこせここ

ちちの意思を汲み取ろうとする努力やめて。気持ち悪いし。吐きそう。

奈土 すいません…。

玄牝 ほらまたあ！

呉 まあまあ、ね、神として十分な説明のなかったあなたにも、責任はあるわけですから。

玄牝 あたしに何の責任があんの！女に責任はないの！女が怒りたい時に怒って何が悪いの！好きな

ものは好き！嫌いなものは嫌い！

呉 いや、だから説明をさ。

玄牝 そうやって何でもかんでも説明してさ！こっちの立場とか理解しようとしちゃってさ！初めか

ら妥協しようとかしちやって！だから、草食系ばっかになっちゃったじゃん！だから一回滅

ぼしたんじゃん！高望みしなよ！思うように生きなよ！あたしも思った事言うんだからさ！思

った事言えないよ！

呉 そりゃ、ちよつと難しいよねえ、神に対してねえ。

奈スン うん。

玄牝 ほら！そういうの！あー、もうアタシ男の理想高すぎんのかなあ。あたしもたまには壁ドンみ

たのされたいのよ。俺様系の前髪サラサラ王子様に。壁ドン！みたいなの。

呉 あの、いま言ってること半分くらい分かんなかったですけど。

奈スン いや、ほら、ちよつとフェミニンな男に壁ドン！「俺と恋してみる？」…みたいなの。

呉 あー、BLみたいなことだ。

奈土 ちよつと違うけど。

呉 じゃあ、ハーレークイーンロマンス…。

奈土 遠ざかってるし。

玄牝 そう！そう！だから、BLみたいな要素も入れたかったの！だから…。

呉 だから、野菜に女っぽくなる成分入れたのか。

玄牝 そ…そう。

呉 でも、思ったようにならなかったんだな。

玄牝 そう。

呉 全部、お前のワガママじゃないか！

奈土と奈スン、拍手。

玄牝 いーじゃん！男だつて女に幻想押し付けるんだからさ！勝手な理想をさ！

奈スン いや、私はそういう積りは…。

玄牝 嘘！男は多かれ少なかれあるよ、本能的に。女だつてあるんだよ！それが自然なんだよ！それを押し付けたんだよ！お互い様じゃん！

奈土 いや、押し付けるパワーがねえ…。

奈スン 違うよなあ。

呉 神と人間じゃあねえ。

玄牝 あー、もう頭来た。ただでさえ陰陽バランス狂ってイライラしてるのに。奈奈土。

奈土 はい！

玄牝 なぜ今まで、村に女を入れなかった？

奈土 へ？あ…いやあ…マーマも時期大人になるし…女を増やし過ぎても危険だから。

玄牝 十二年間もか！？

奈土 娘娘のこともあるので、焦りは禁物だと思いました。

玄牝 気の利かない男！奈奈土、消滅！

奈土 え…あ…いやあ！

奈スン 奈土オ！

奈土、中央袖に消える。

玄牝 奈奈スン！

奈スン は…はひい！

玄牝 なぜ、奈娘娘を殺させた！

奈スン え…だって、ママを連れ去ろうとしたんですよ、それに僕だけが殺そうと思ってたわけじゃ…。

玄牝 うるさい！男が言い逃れするな！娘娘が帰ってきて、陰陽バランスが少し戻ったのに、何で上手く生かしたままこの村に引き止めなかったのか。

奈スン 無理ですよお、本人が出て行きたがつてるものを。それに、殺したのは私じゃなくてママ…。

玄牝 女のせいにした！女のせいにした！許せない！奈奈スン、消滅！

奈スン

あ：あああああー！

奈スン、中央袖に消える。

玄牝 さて、刑事呉。

呉 …。

玄牝 お前は男らしい。

呉 どうも。

玄牝 男らし過ぎる。故に消滅。

呉 勝手なことだ。男らしい方が好きなんだろう？

玄牝 お前は、あちこちに自分の幻想を押し付けすぎた。

呉 仕方がない。それが俺だ。

玄牝 何が「それが俺だ」よ！開き直ってんじゃないわよ！

呉、黙って銃を玄牝に向ける。

玄牝 また殺すわけ？ふーん…でも、本物の女なんてこんなもんだからね。

妈妈、立ち上がって玄牝の前に立ちはだかる。

妈妈、駄目！殺さないで！

呉 だけ。

玄牝 ほらほら、始まったよ、茶番が。

妈妈 もう、殺さないで！あなたが誰かを殺すところ…もう、見たくない！

呉 こいつを殺さないで、俺が消されるんだ。男としての俺が。

妈妈 やめて！

玄牝
あつはつは！健気ねえ…あんた、こういうの好きなんだ。
呉
どけ…。

呉、妈妈を突き飛ばす。

玄牝
ひ…ひああ…やめて、返す！お金なら返すから…！もう逃げないから！
呉
お前は、俺のマーマじゃねえ！

呉、発砲。ヨロヨロとへたり込む玄牝。と、玄牝の中からドサツとポストンバックが落ちる。
玄牝、ヨロヨロと中央袖へ退場。

妈妈、腹を押さえて這いずる。ポストンバックを拾い、そのまま後ずさり。呉、舞台下手に妈妈を追い詰め再び発砲。息を引き取る妈妈。呉、その場にへたり込む。

奈土、奈スン登場。奈土は背広にネクタイ、奈スンはYシャツ・スラックス、ガンベルト姿で登場。呉、倒れたママの前で安心して座り込んでいる。

奈スン

ウーヨンピン
呉永冰。

呉

∴。

奈スン

呉永冰！立て。

奈スン、呉を強引に立たせようとする。

奈土

待て。

手を止める奈スン。

奈土

仮にも党中央のお偉いさんだからな∴手荒な真似はしたくないんだ。∴自分で立つてもらえませんかね。

呉、放心したまま座り込んでいる。

奈土

金を持って逃げた女一人∴あなたが自ら手を下すまでもなかった。ご自分のお立場を棒に振ったんですよ？お解りですか？

奈スン

いつもみたいに、頼んでくれればよかったんだ。

奈郎、Yシャツ・スラックス姿、ガンベルト着用で登場。

奈郎 警察はあんたの味方だったのに。

奈土 お疲れ。

奈郎 中央と連絡が取れました。呉永冰の身柄と引き換えに、警察内部の我々のポストは保障される
とのことですよ。

奈土 よろしい：いやあ、安心したよ。

奈スン あんた、金を持って女と亡命しようとしたんだ。

奈郎 党中央でそう決まった。

奈土 敵が多いって大変ですね。

奈スン あんたが殺させた女たちの情報を手土産に、我々は許された。

奈郎 今度は、あんた自身が手土産ってわけだ。

奈郎と奈スン、笑う。

奈スン 呉永冰、奈娘娘殺害の容疑で逮捕する。

奈スン、呉に手錠をかける。呉、自身の手を見る。

呉 また逃げられちったよ。

奈郎 あ？

呉 別に壊したのは女だけじゃない。水道管とかさ、ドーナッツとかさ…。

奈スン ドーナッツ？

呉 Tシャツとか洞窟とか土星の輪とかさ…全部俺のママだった。

奈郎 おめえ…穴が開いてりや何でもいいのかよ。

奈郎と奈スン、笑う。

呉 いや、海とか…谷間とかさあ、このあたりみたいな…女を感じればそれが俺のママだ。壊し

たがね…全部。

奈スン 海をか？

呉 海はさすがに無理だった。でも壊したよ、ママじゃない…偽物だと解った時は。谷も沈めたよ、ダムにした。ドーナッツも食べた。女は殺した。

奈郎と奈スン、笑う。

呉 今度は、本モンだと思ったんだけどなあ。俺の中のママだと思ったんだけどなあ。ママは逃げねえもん…金持ってたか。

呉、サングラスを外して、ママの体に顔をうずめる。

呉 すぐにいなくなっちゃうんだよなあ…。

奈郎と奈スン、乱暴に呉を立たせる。

奈郎 いねえんだよ！そんなもんは！

奈スン マーマだかパーパだか知らねえが。

奈郎 さあ、こいつを手土産に北京へ凱旋だ。

呉 やめた方がいいと思うよ。

奈スン あ？

呉 党中央は君らの手に負える相手じゃないよ。私も含めて。

奈郎 そういうごたくは刑務所で並べな。

奈スン もっとも誰も聞いちゃくれねえが。

奈郎と奈スン、笑う。

呉 この辺の地方政府も軍閥も、相変わらず私の味方だ。表向き取り締まっているが、裏では通々のマフィアも味方だ。そして、君らの上司もだ。

奈土、拳銃で奈郎を狙う。

呉 そして、この人もだ。

音響さん、拳銃で奈スンを狙う。

と、奈郎と奈スン、目配せ。銃を抜き呉を撃とうとする。奈スン、音響さんに撃たれる。銃を床に置き、レイズハンドのまま後退する奈郎。

呉
ママが入っちゃった…行っちゃった、穴に…入っちゃった…穴…穴…!

呉、舞台を這いずり回って「穴」を捜す。と、奈スンの腹に開いた銃創を見つける。

呉
穴…穴…。

奈土
あー…。

呉
あいてるう…。

奈土
そりや、撃ちましたからね。

呉
ママ…。

呉、奈スンの傷口に入ろうとする。もどえる奈スン。妈妈、盛装にて登場、舞う。呉、妈妈の足元にすぎる。

妈妈
再び出会いましょう。何者にもなりましょう。何度壊されても殺されても、私はあなたのママです。

妈妈、呉の涙を優しく拭う。呉、フラフラと立ち上がる。

呉

ニーハオ…ニーハオ、北京。党中央委員、呉より報告。今から北京へ帰る。他のメンバーに伝えたまえ。主人の留守を狙う空巢泥棒は、一人残らず容赦しないだろう。ママはいない。俺の中の、理由のない優しさも消えた。今は、貴様らを冷徹に裁く男が一人…いるだけだ。

呉、中央袖へ入る。顔だけを出す。ママを見つめて笑う。

呉

また…来ます。

妈妈、ニコリとうなずく。呉、スポンと中央袖に顔を引っ込める。

完